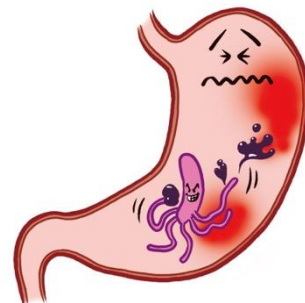


ピロリ菌プチ検査

<ピロリ菌は胃がんの原因菌>

ヘリコバクター・ピロリ菌（以下、ピロリ菌）は子どものころに身体に入り、胃にずっと住みつく細菌です。ピロリ菌が胃に感染していると、胃がんになりやすくなることがわかっています。除菌をすれば胃がんの予防につながります。



<ピロリ菌プチ検査について>

Q1. どんな検査をするのですか？

血液検査でピロリ菌に対する抗体（ヘリコバクター・ピロリ抗体）を調べます。比較的若い方（50歳未満）で除菌歴のない方の、ピロリ菌感染の有無を概ね推定することができます。

現在感染している場合だけではなく、過去に感染していた場合にも陽性になる場合があります。また、高齢者の場合は、ピロリ菌がいても、低値（いない可能性が高い）という結果がでることがあります。

Q2. この検査の結果について教えてください。

結果は、以下のようにお知らせいたします。

- ・高値（抗体価 10 以上）：ピロリ菌に感染している「可能性が高い」です。
- ・軽度高値（抗体価 3 から 9.9）：ピロリ菌に感染している「可能性があります」。
- ・低値（抗体価 3 未満）：ピロリ菌に感染している「可能性は低い」です。

50歳未満の方で結果が低値だった場合は、ピロリ菌に感染している可能性は非常に低いので、受診は必要ありません。

もし高値か軽度高値だった場合には、胃がんがないことの確認のための胃カメラ検査と組み合わせて最終判断をする必要がありますので、受診をお勧めします。

Q3. 慢性胃炎と言われている、あるいはピロリ菌を除菌したことがある場合はどうしたらいいですか？

これまでの胃検査（胃カメラ、バリウム検査）で慢性胃炎と言われたことがある方、あるいは除菌歴のある方は、胃がんがないことを直接調べるために、胃がん検診や医療機関の受診をお勧めします。また、この検査では除菌が成功しているか不成功かの判断はできません。

Q4. 胃がんがあるかどうか、この検査でわかりますか？

胃がんの有無を判断する検査ではありません。

<ピロリ菌がいたらお薬で除菌できます>

ピロリ菌がいることがわかれば、1週間の飲み薬で9割以上の確率で除菌することができます。胃がん予防効果は若いときに除菌したほうが高いことが知られています。

ピロリ菌の検査を受けるチャンスのない方は、是非お申し込みください。